



# Bauhaus Project



Architecture  
Presentasion

architect  
Kazunari Tabuchi

FANFARE



建築家と建てる家を、  
身近に、手軽に



R+house



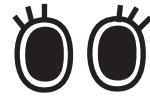
**BAUHAUS.**  
The house satisfies the functions,  
and it's strong and am cheap and there should be it beautifully.



# block planning

## 配置計画

北側道路が交通量が多く  
特に視認性が特に高い



周囲の道路が狭く、家との距離が近い  
ため  
2階部分を道路側から離すことで、外から見た時の  
圧迫感を無くし、全体のバランスも安定する。

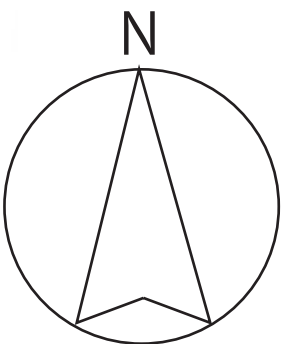
道路からの視認性も考慮しつつ  
庭が閉鎖的にならないように建物全体を  
北側に寄せている。

2 階部分

隣家

隣家

隣家



## — Request —

**家族が増えても困らないように洗面ボウルは2つ。**  
朝と夜は洗面が混雑しやすいこともあり、洗面ボウルは2つ。  
一般的に脱衣と洗面は同じスペースに設けられるが、そうすると誰かが、お風呂に入っている時に洗面が使いつらいということになる。  
洗面は来客も使うことがあるため、脱衣室からは独立させると断然、使いやすい。

## — Request —

**家事ストレスを少しでも減らしたい。**  
キッチンを拠点に、玄関・水回り・LDK・2階、どこへでも行き止まりなく行ける動線で家事へのストレス軽減。

和室からリビングまで視線が抜けることに加え、L字型の窓にすることで中庭とLDKが繋がり、より広さを感じられる。

行き止まりが無く、部屋中をぐるぐる回れる動線は住まい手にとっても、ムダが無く来客が多くても動きやすく、もてなしやすい。

家族動線

来客動線

玄関アプローチは、庭を眺めたり、一息つけるスペースとして、あえて入口から玄関までの距離をとっている。  
建築家のゆとりある演出。

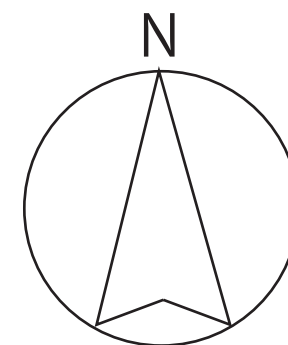
## — Request —

**晩酌をするので。**  
**夕食はゆっくりと時間をかける。**  
配膳の距離を最短にすることで、料理を作る→出す、行動も楽に行える。  
家族それぞれ食事に要する時間は違うので、子どもの食事が済んでリビングにいてもキッチンダイニングから様子を伺うことができ、家族が別の行動をとっていても一体感を感じられる配置。

## — Request —

**部屋から庭への繋がりをもたせたい。**  
**バーベキューができて、家族が全員庭に出ても狭さを感じない庭に。**  
庭との繋がりを楽しめるようなLDK。  
外に視線が抜けることで、開放感があり、空間を広く見せるが、道路（外）からの視線は遮られているので、気兼ねなくバーベキュー等を楽しめる。

リビングの落ち着いた雰囲気を壊さないようリビングからは見えない位置に。階段を上がる際に、庭がきれいに見えることにより庭との繋がり、庭への広がり重要視した建築家のこだわり。



2nd  
floor

## — Request —

**子ども部屋は年齢によってカタチを変えられるような間取りを希望。**

将来、中央で仕切れば、二つの個室になる。  
また、扉を引き戸にすることで、状況に応じて個室にしたり、オープンな空間にしたりと自由楽しめる。  
オープン時は廊下の先に鉄骨階段と窓があるので、より開放感を得られる。

ファミリークロゼットは、収納する場所を一つにすることで、家事の効率上がることと、各部屋のクロゼット分のスペースを削減できるので、その分部屋が広くできるというメリットがある。

## — Request —

**小さくて良いので書斎を希望。**

寝室から近く、よりプライベート間を演出するため、階段・子ども部屋から一定の距離をとった配置。  
引き戸を開けたまま家族の気配を感じることができ、閉めれば完全個室となり、集中できる空間に。

室内干しスペース。

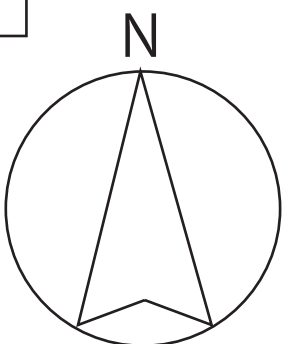
洗濯物を干す場所と収納する場所を同じ階にすることで家事効率アップ。  
また、家族が自室に入るときに必ず通る動線になるため自分の洗濯物を自室に持って行くことに面倒が無くなる。

## — Request —

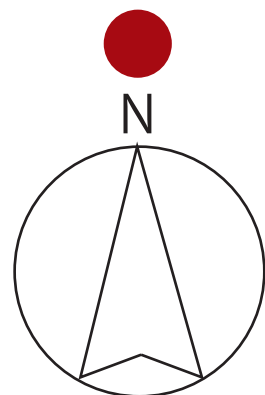
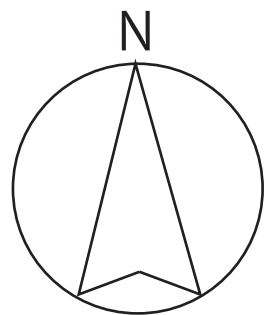
**寝室には読書やお化粧をするスペースを希望。**

読書や書き物、スキンケアなどができるカウンターを設けた。  
カウンターにすることで家具を置かずに済むので、空間も最大限広く使える。  
収納スペースも確保し、ファミリークロゼットに入りきらないモノや、子どもに触られたくないモノなどは寝室に収納できる。

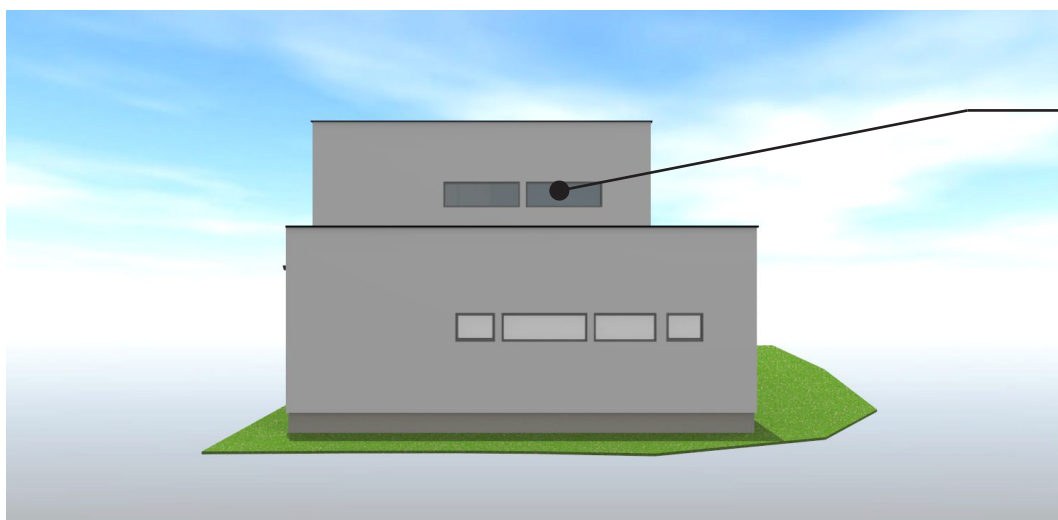
視線が外に抜けることで開放感を演出。  
室内がより広く感じる。



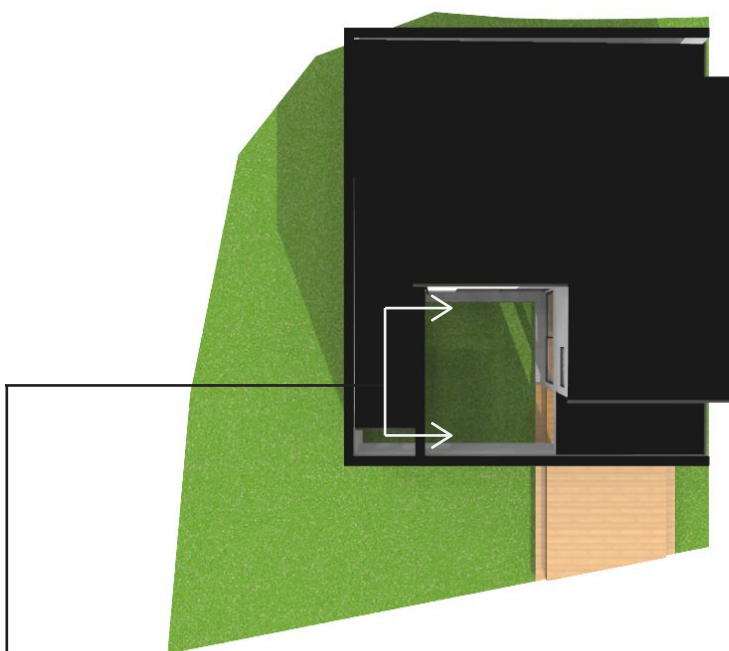




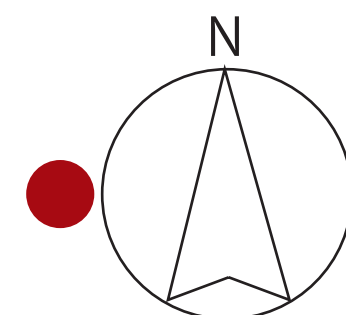
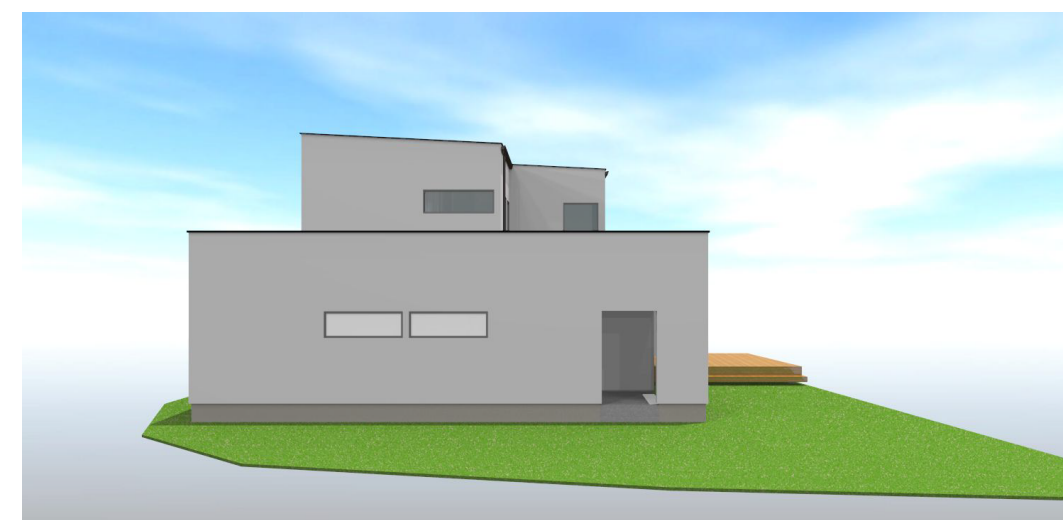
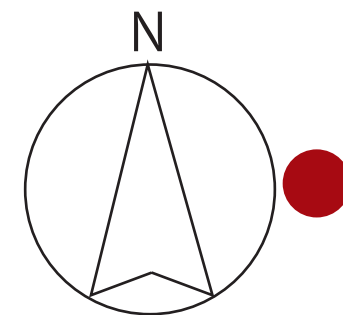
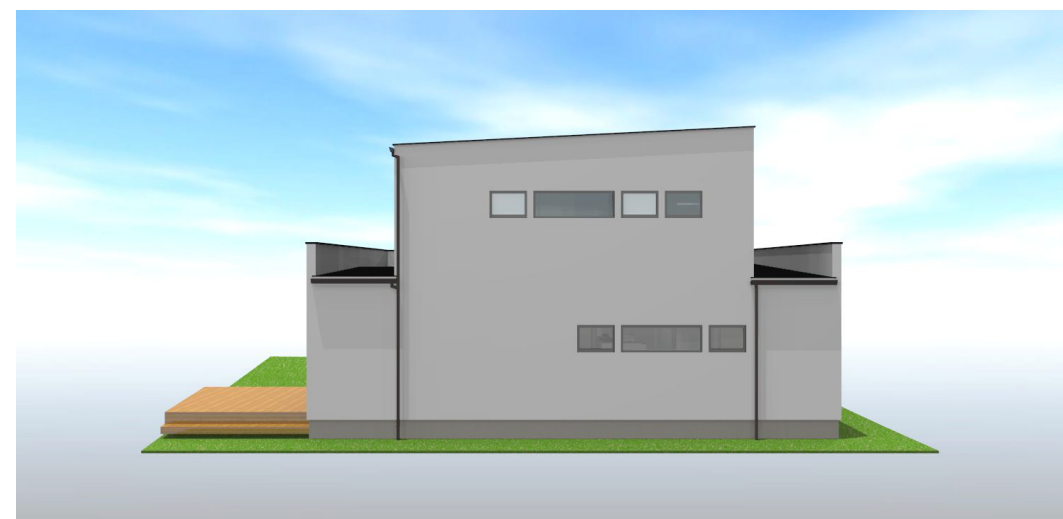
南側のスペースを最大限利用したウッドデッキ。  
ウッドデッキは、地域や近所との繋がりを大切にしたいという思いから仕切りの無いオープンな創りに。



横長の窓を連続させることで  
横の長さが協調され、安定感がでる。



壁の中に入っていくイメージ。  
入り口すぐ正面は壁になっているが、壁に覆われているのではなく奥の庭へとつながっている。圧迫感はなく、広がりを感じられる。



冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく  
自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

夏：午後 12 時



冬：午後 12 時





# 熊本風配図

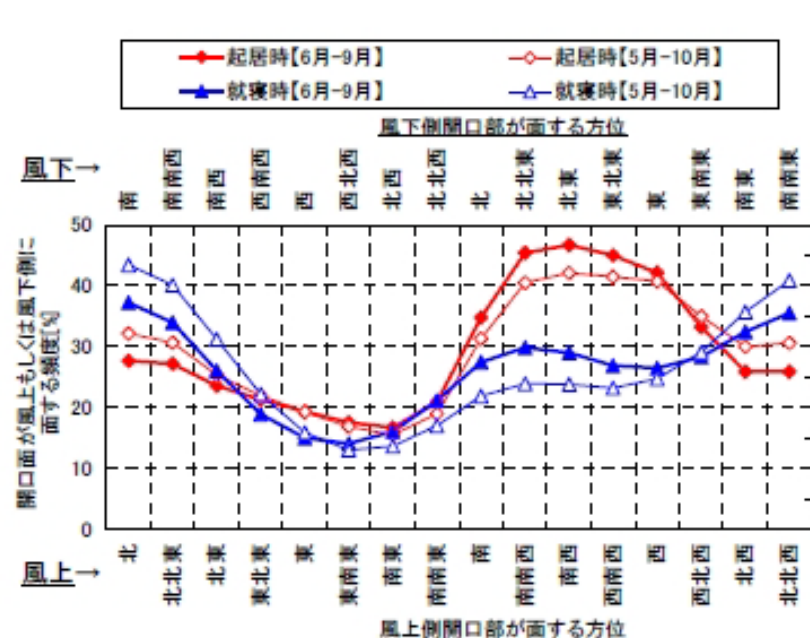


図1 開口部が風上側、風下側に面する頻度

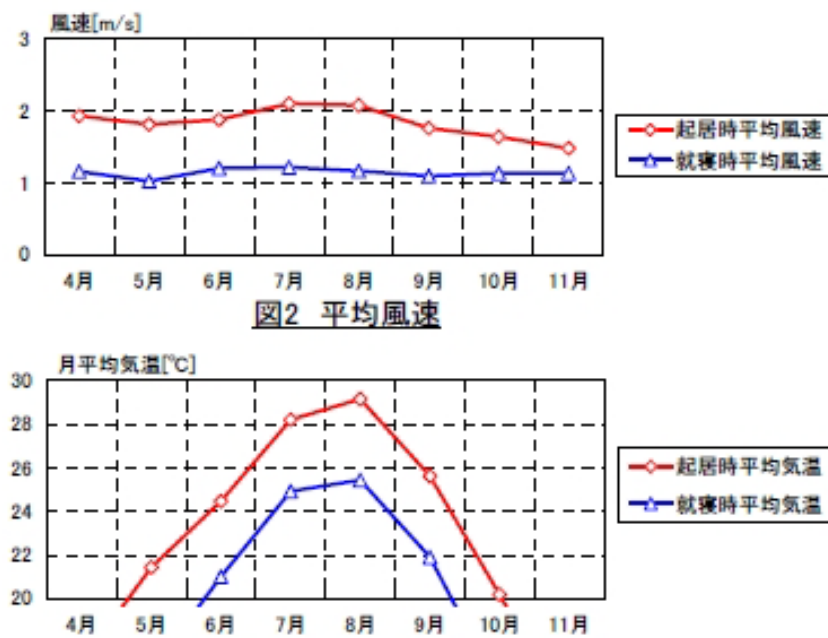


図3 平均気温

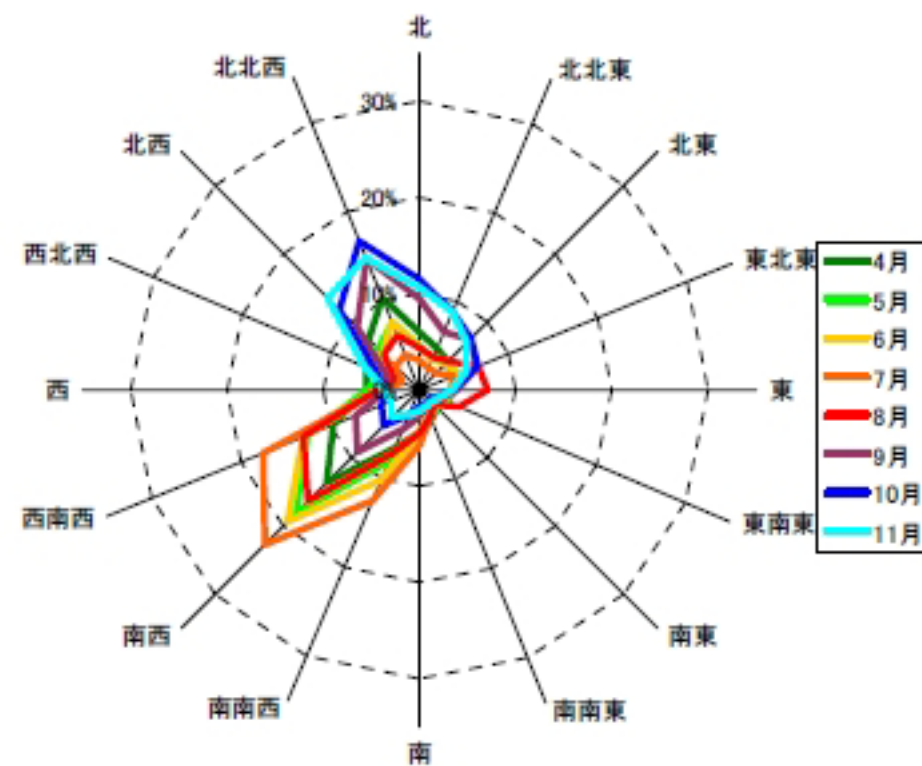


図4a 月別風配図(起居時)

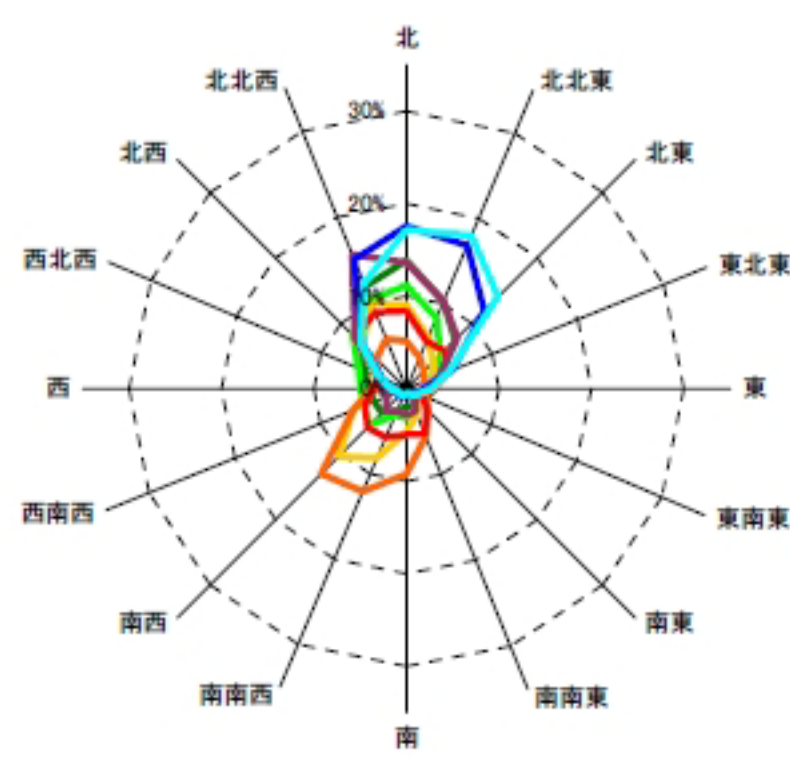
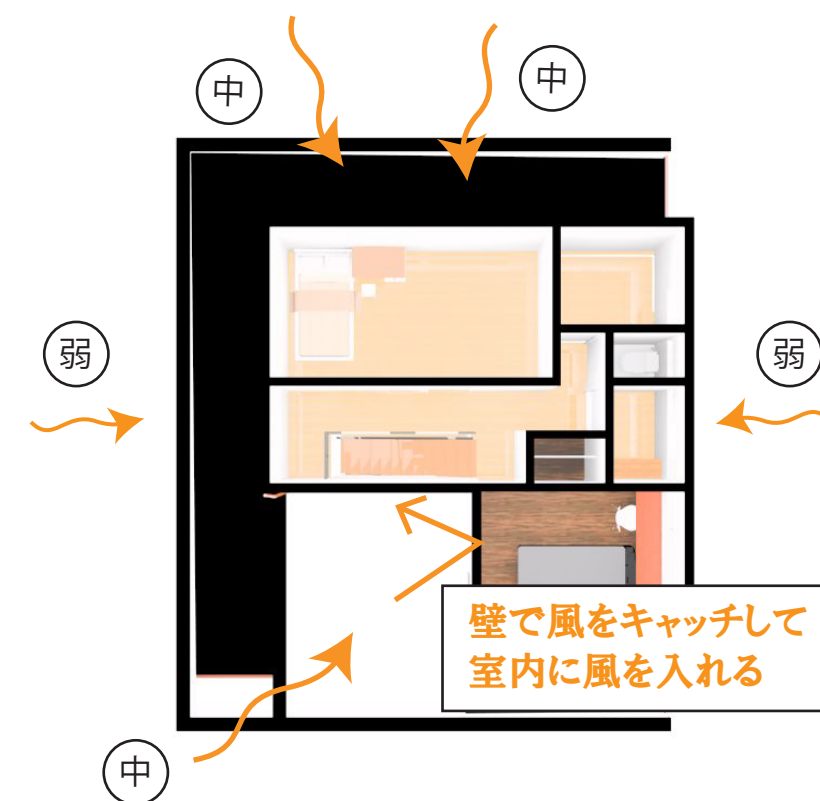


図4b 月別風配図(就寝時)

## 就寝時



## 起床時

